

中国の大地震（M7.8）の原子力関係の影響について（3）

20.5.18 13:30

原産協会国際部

中国での大地震について、海外情報として5月14日付のワールド・ニュークリア・ニュースの記事「四川地震の解析」を紹介します。

民生用原子力施設については、これまでのところ、具体的な影響が出たとの情報は得られていません。

「四川地震の解析」

(WNN ワールド・ニュークリア・ニュース、2008年5月14日) (抜粋訳)

- ・ フランスの放射線防護当局は、中国の四川省で5月12日に起きた地震の影響について分析結果を発表した。これは放射線防護原子力安全研究所（IRSN）のウェブサイトに掲載されている。
- ・ 中国の4ヶ所の商業原子力発電所（田湾、秦山、大亜湾、嶺澳）は、いずれも震央から1400～1500km離れている。米国地質調査所のデータをIRSNが解析したところ、それらのサイトでは 20cm/s^2 を超える地震加速度は起きていない。IRSNは、「点検結果による確認はまだなされていないが、顕著な被害は受けていないと見られる」と述べた。
- ・ しかしながら、幾つかの研究炉と核燃料製造施設が、震央から約100km程度以内のところにあり、IRSNは、「震央から70km地点で 250cm/s^2 の地震加速度を観測しており、現段階では、これらの施設が全く地震による損害を受けていないとは言い切れない」と述べた。
- ・ 原子力施設は世界中で最も頑丈な構造物であり、地震が起きても安全性を維持して、地震に耐えられるように作られている。

以 上